

# 自然破壊の川口物流拠点事業と

# 川町残土持ち込み計画を許すな！

不十分な環境アセスで進めるとはできない



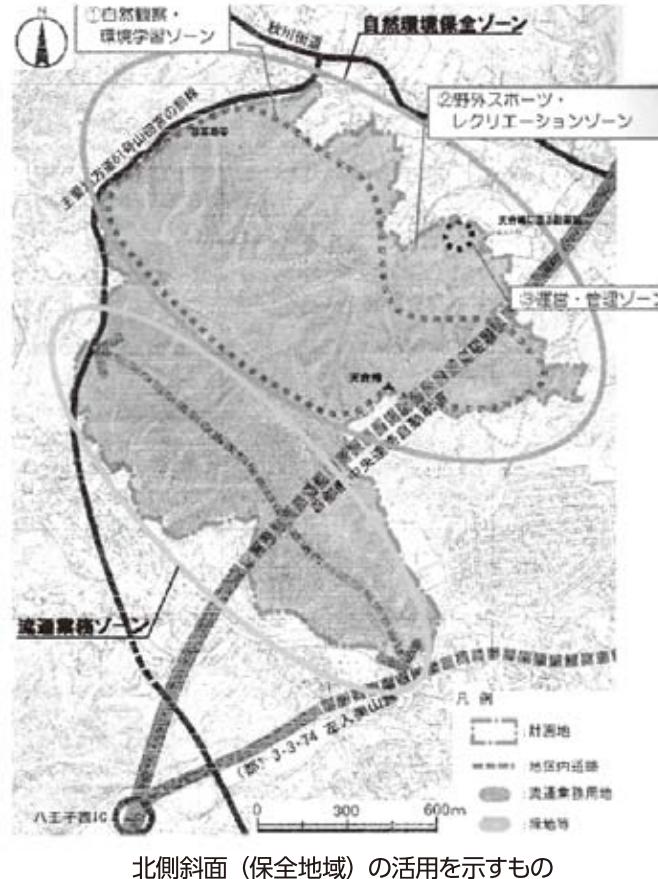
鈴木ゆうじ議員は6月9日行われた市議会一般質問で、川口土地区画整理事業として進められようとしている物流拠点事業の環境アセスの問題点と川町の大沢川上流域への大量残土の持ち込み計画の事業者の責任問題、並びに上老分方町都有地の活用を求めて質問しました。

とではなく、人と自然が関係しあい管理をしていくということで、スポーツ施設やそのための管理棟の建設は事前アセスで示された内容と合致している」と答弁しました。明らかに土地の活用であり合致するものとは考えられません。

さらに、これまで、市やまちづくり公社の資金は開発には使わないとしてきました。これまでの資金を貸して事業が進められている内容を明らかにさせました。これまでの貸付金合計が、3億3775万円で今後9億円までの資金貸し出しが考えられています。また、まちづくり公社内で開発リスクの検討がされていることを明らかにし、リスクの内容、公社と市がリスクの負担責任を負うことがあるのか質しました。市の答弁で資金援助は定められた区画整理事業の補助制度の範囲内のもので、そのほかの資金援助は行わないことを確認しました。



鈴木ゆうじ議員は6月9日行われた市議会一般質問で、川口土地区画整理事業として進められようとしている物流拠点事業の環境アセスの問題点と川町の大沢川上流域への大量残土の持ち込み計画の事業者の責任問題、並びに上老分方町都有地の活用を求めて質問しました。



として市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。

市は、「造成計画は27年度末に広告総覧を行い28年度末に組合の設立認可をめざしている」との市の発言を受け、鈴木ゆうじ議員は、まず「作成しているアセス準備書は造成計画が示されていないので土地の改変がどのようになるのか不明であり、環境アセスは山を崩されるごとにによる環境への影響評価を行うもので、どのような造成が行われるのかを示さない影響評価はアセスの意味をなさない」と、さらに「環境への影響は最終の土地利用により大きく変わる。最終の土地利用が示されないもとでは、昼夜の企業活動や交通量の判断もできない」と、

「この間、行ってきた事前アセスでは、北側斜面はみどりをそのまま残すとして市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。最後に北斜面の利用についての予定の都市計画案で概略を示すことは、「保全の内容は放置するというこ

として市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。

市は、「造成計画は27年度末に広告総覧を行い28年度末に組合の設立認可をめざしている」との市の発言を受け、鈴木ゆうじ議員は、まず「作成しているアセス準備書は造成計画が示されていないので土地の改変がどのようになるのか不明であり、環境アセスは山を崩されるごとにによる環境への影響評価を行うもので、どのような造成が行われるのかを示さない影響評価はアセスの意味をなさない」と、さらに「環境への影響は最終の土地利用により大きく変わる。最終の土地利用が示されないもとでは、昼夜の企業活動や交通量の判断もできない」と、

「この間、行てきた事前アセスでは、北側斜面はみどりをそのまま残すとして市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。

上老分方町遊休都有地  
ずつと未活用なら  
政治力が問われる！

上老分方町遊休都有地  
ずつと未活用なら  
政治力が問われる！

として市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。

市は、「造成計画は27年度末に広告総覧を行い28年度末に組合の設立認可をめざしている」との市の発言を受け、鈴木ゆうじ議員は、まず「作成しているアセス準備書は造成計画が示されていないので土地の改変がどのようになるのか不明であり、環境アセスは山を崩されるごとにによる環境への影響評価を行うもので、どのような造成が行われるのかを示さない影響評価はアセスの意味をなさない」と、さらに「環境への影響は最終の土地利用により大きく変わる。最終の土地利用が示されないもとでは、昼夜の企業活動や交通量の判断もできない」と、

「この間、行てきた事前アセスでは、北側斜面はみどりをそのまま残すとして市民に説明してきた。しかし現在北側斜面の活用方針が示されスポット施設をつくり管理棟などの建設を予定した案が突如出てきた。明らかにこの地域の活用を考えているもので保全方針とは違う」と厳しく質しました。